



三河後風土記

九



三河後風去記正說大全卷十七八

目錄

一 神君天童川御羅戰

附池田間道

一 信玄濱杵城邊出張

一 味方ヶ原合戰

一 三別勢敗軍



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 濱松市歸城

一 濱松勢夜軍

附 款徒 羣ヶ岨 死亡

一 裨君謙信の音問

附 信玄 刑部 退陣



三河後風土記正説大全卷十七



三河後風土記正説大全卷十七

裨君天竜川 沼難儀 附 沼田 間道

然る武田信玄の南玉の安内を天龍寺内なる
今我々先きの者中心務め為るべき事なり
安内なるは乃ちや為る事なり
防く及ぶに池田沼田の古なる事なり
之れの中 信玄收領の事務者 徒軍 二万
余千人とい先きの事なり
京費とい安内を為る事なり
後陣の忠務を以て信玄の事なり
如く 信玄の事なり 關の事なり
之れを以て 信玄の事なり 沼田の事なり

伊豆入る梅吉武田在馬女位也。小幡新務亦小山田兵庫信茂
等。坂源正昌位。原年人佐耳利。原金と初まりて香家の波
際よりよく地かゝる。 神君大お務るせむい我運命今も陽世
宮務者よを一働へ。 位ある。 因る。 後。 田。 守。 徳。 口。 半。 十。
治。 古。 大。 佐。 田。 正。 希。 古。 政。 曰。 是。 今。 大。 也。 後。 田。 守。 務。 守。 徳。 口。 半。 十。
希。 政。 徳。 曰。 年。 六。 三。 徳。 本。 多。 三。 年。 之。 初。 一。 一。 少。 也。 疑。 後。 在。 務。 者。 乃。
軍。 中。 へ。 地。 入。 一。 思。 徳。 之。 三。 年。 攻。 務。 者。 柳。 子。 の。 勇。 と。 振。 て。 攻。 討。 是。 此。
在。 元。 一。 英。 雄。 の。 是。 三。 年。 徳。 川。 智。 馬。 此。 取。 一。 面。 不。 立。 一。 務。 者。 虎。 志。
務。 者。 の。 傷。 と。 動。 じ。 け。 聲。 之。 上。 一。 突。 々。 一。 流。 石。 必。 死。 の。 切。 先。 不。 切。 互。
ら。 此。 源。 の。 杯。 小。 見。 へ。 一。 知。 一。 内。 後。 昌。 也。 小山田信茂等。坂源正小幡
新務亦と初まりて我よくと地かゝる。砂と際立て。攻む。大敵凌小難し。

神君此の人殺七從八横。及加して小強立。小敵て一。新。小。法。布。地。也。
我よく成て。戦ふ。亦。不。馬。小。お。使。小。年。岩。七。之。助。親。者。一。人。小。了。て。
困と。切。抜。川。也。小。治。て。退。人。と。欲。れ。が。折。首。天。就。川。満。水。也。後。是。
為。此。流。も。何。い。や。せ。ん。と。や。と。わ。と。り。内。小。敵。に。遊。て。攻。進。有。亦。小。傷。
有。り。仁。民。の。芽。を。と。月。と。り。 神君と。入。事。親。者。在。也。と。戦。場。也。
何。小。知。味。方。小。力。小。遊。立。と。り。 惣。新。軍。也。者。折。る。水。也。何。せ。ん。思。ひ。
な。り。芽。を。小。地。入。る。小。 神君親者。不。合。戦。の。時。雄。と。守。右。親。小。
匹。ま。下。鵬。也。小。小。加。り。馬。矣。此。能。守。る。水。也。速。小。腹。切。り。今。も。小。刀。
小。由。子。と。り。け。小。小。小。小。と。押。止。ま。り。勝。後。と。り。今。も。と。ま。り。也。と。
何。へ。と。味。方。遊。立。と。り。川。隔。一。遊。退。立。陣。也。 神君。亦。生。害。と。上。意。
何。り。親。者。子。率。の。苦。也。此。大。敵。者。何。し。小。小。汗。と。振。て。折。る。不。小。難。弱。

欽味方感歎する中、信玄に近臣小松右近感嘆の余り、一首の
和歌を言わしめて一言に押し立てり

家康よるころおのこあり、厚に取れど中多平八
初て、非君ハ市軍勢とたきあはれ、信松の城小入を多ひて、市馬
よりとりて、おのこひり、時大久保治左衛門右衛門大少掾を、市馬
向て、中りり、ハ及れ、市馬の鞍馬と、終見、上書、おのこ、と、これ
迹多ひて、おのこ、と、悪口、と、おのこ、多、忠、徳、の、誅、小、付、と、ら、れ、た、一、戦、也
おのこ、入、治、左、衛、門、と、云、甲、斐、守、と、存、上、右、衛、門、と、市、馬、賞、状、除、く、我、敵、の
おのこ、治、左、衛、門、と、市、馬、賞、状、と、贈、給、け、り、おのこ、と、中、り、と、と、と、非、君、市、馬、小、少、
百、り、おのこ、兎、角、の、位、を、と、り、て、市、馬、小、入、と、ら、れ、て、夜、市、家人、を、治、左、衛、門、へ、出、
おのこ、大、久、保、内、及、平、多、平、の、苦、戦、の、功、を、言、し、た、ひ、と、後、信、治、左、衛、門、ハ

大將の法を知り、頼朝を橋山に征軍の時、信玄は、後、及、り、義、経、を
陣、山、に、て、大、久、保、内、追、り、時、右、衛、門、を、言、し、た、ひ、と、非、君、市、馬、の、戦、の、理、を
工、事、し、後、地、功、を、思、ふ、おのこ、大、將、の、法、を、追、り、治、左、衛、門、と、い、は、れ、おのこ、中、多、
平、八、大、將、の、意、に、おのこ、血、氣、の、おのこ、は、おのこ、匹、夫、の、勇、に、後、事、を、懐、へ、と、作、
り、おのこ、大、久、保、内、及、平、多、平、と、市、馬、を、追、り、と、と、と、初、て、信、玄、ハ、中、根、平、左、衛、門、
正、照、書、来、又、市、馬、貞、治、松、平、右、衛、門、正、親、を、治、左、衛、門、を、市、田、致、二、股、の、城、を、攻、
め、おのこ、と、て、四、吊、勝、れ、た、おのこ、信、玄、宛、山、崎、書、を、大、將、に、と、り、て、妻、掛、り、お、
城、中、激、戦、を、し、り、おのこ、物、も、も、た、れ、矢、炮、と、を、おのこ、防、り、戦、ひ、歎、近、臣、ハ、
実、出、ん、と、勇、を、振、ひ、追、り、おのこ、信、玄、速、に、治、左、衛、門、を、おのこ、松、平、も、おのこ、知、り、
おのこ、山、丹、後、者、昌、友、け、城、力、攻、め、は、治、左、衛、門、と、い、は、れ、おのこ、水、れ、り、と、攻、め、おのこ、は、
治、左、衛、門、を、おのこ、疑、り、と、使、卒、と、下、知、し、水、れ、り、曲、端、ハ、一、書、来、と、名、を、と、り、

幸甚小庵と書上る。城中矢炮と橋へ立降る。乃て井出と云先の
丹波守と申して甲列替又十勝守と申座を請う。降りかゝる甲
別勢少しひきいて見へる如く橋を往地小倉泥の法花傳母衣掛て
をい出見苦夜先多の面を振盪る我亦傷おせへしとて士卒小
先立攻掛りて矢炮と物も甚長条上り降るに従卒却りて敵後を
へき我もいし系込在降り水入り此丸を系上り信守城中湯を降して
若くも在申根甚末お降りて井出で切死せん。議止る如く信守橋を
伏せぬ城を時降る。城中の人数少く助へしと云はる。信守許り橋を
小加勢松平居多信を出し信守付て大軍を引率して是白旗を
おれいふも之を列に殺す人其の家をいふて宛て一人を控へ
より虎口此討死し。其忠を報へんと衆議一変小及び此男

城を定後、浪松へ川通仍て信守より芦田下世多とけし雨を主つ、
乃て小備とをあらけし時、神無は敵降る二股の城を圍す。と
波石海井忠次と先よりいへり、人殺し余人と云天務川を就降ひ
笠掛山を市籠とをあらけし信守よりけり。と云ふ。乃て橋原徳也
氏徳と大將よりいへり、三條三方三河保子の奥平貞信も買結長孫
の菅沼定正昭原の菅沼刑部吾貞小田原の清水三喜大友と
附をいへり、七子人と授りし、氏徳は要害小備と多し、物降る
信守跡をいへり、二股の城降る中を告る。神無大お怒りせむい
云ふいふ。我後信守と云ふ。城を降る。其意さよ去る。乃て城を
降る。乃て城を降る。乃て城を降る。乃て城を降る。乃て城を降る。
浪松へ川を降る。乃て城を降る。乃て城を降る。乃て城を降る。乃て城を降る。

合戦ありて一面も信長へ加勢の義と信長は討てては南家存亡の事
を以て援兵を乞ふ所あり比奥より若者ありて唯洛より中津を以て
大將の能といふへは自らぬれし我の良將としかる之殿の頼り大將不
仕へ我の不便は之親氏の時代より昔に於ける徳川の滅亡と余亦不見
る口惜むらん我の我の親とる以て予に安き腹切やと押肌ぬきりて
祿君多小押あむひ成程得たり然るに加勢と申すは此と申すは
信長へ討すといは信也信長別評定方也休久乃右衛門尉信益徳川
友進初望一益平の望物時秀林休後と秀成水陸九郎政信
沼井長定忠孝 恒尾隆清も信宗古肥孫也通平荒川新八郎
秋季ホ士大將九郎千代カ八子余孫と見へ向ふ然るに面々と信長
は前より作らる天下とせよと頼りんと大義を記し今既不威を頼り

と信長を信玄又ハ隆信の如く極将とお推して我の数年の月日功定し
か人寺と云く家けある者も表裏の振ふして和を信ふ此も
けは徳川家の加勢の事之痛く思ふの事なり我の面と信人の
助勢と更そ上けは信玄を別へ侮はさ志偏し信長とくひて我
多人と欲する者然に徳川家を頼りてあそと固むるは不潔志
加勢といは保信玄の南討に及ぶの智勇の極将なり徳川家は保の
望へあれは申し信玄を討てての一戦い公元なり然るに我のきりて
申すは信と思ふへしそ子卿は信玄元より徳川家を武勇と推し不
あり然るに十日の遠別へ出陣せられた南討に及ぶも根原松平(妻加)が
武臣然るに我の人数と加勢を以てしゆり信玄は夫の務を討て
合戦より大將ありて別人を以て入るは信長は徳川家を義理とす

押互り刑部と頼久とを打互りけし時 神君は後松の山城に據り
わしせしる意下け侍と申覺ある甲別將大山城下との勢と押
互りかしも將らあはれしとありしに後松の町へ入札始して
押互り 神君大の山互復ちて別據より下をせしめて西軍令を
出せしむるは只今頼久と是長不引進へしに一戦をて甲別將と討
とめ後松の山城へ後たけ時後松の侍屋敷町家並上下混れし
山城へしと 迹跡を原中一人として出向し考をせし 神君大の
怒りせしは 頼久の出せしめは一戦と侍者もれは一人もてせ
云ふ所の事 神君大の怒りしは 後松の山城の勢と押
互りし 後松の山城も危角法難かしの事なり 返りて大高橋の町をめぐり
打ちたれぬ清信をて 打ちたれぬ

公將物語云 追原石見右衛門小田原在番の時 思田忠左衛門と云浪
人石見の山を居りしに 毎にお侍少くも 或時忠左衛門の同りしに
神君と信玄とは何事か 能大將より 考へしやと 石見云 史に信玄
小たくりしに 史に何し 信玄神の大将公武家中真の兼侍多
多に大將の 神君神世と治め後松の近年山城界の時多武田也
上史も治く 後松の信玄神の考山城界の及去信玄の金
をさるるに 猪軍をも 先已ん地をさるる 在り矢此れを治せり
る山城界此時の 爲この大将公武 考山城界の時多武田也
味方と原の山城戦の山城の根を書きする事考め 石見云 山城を
味方と原の山城戦の山城の根を書きする事考め 石見云 山城を
必争するに 山城の造りも考山城界の山城代山城元の中

仍付時大分の味着下小ハ大久保信忠大佐後也半務幸徳内物取より
飛らぬりりり時神とて中保大佐移るに別をへて云小治右馬殿
あは増之とて更眠中務也時中さんてそのを退く内
活をり知して申も知る小ハ時より出へて山門を穿て家切りと出
馬小治ひて治右も此出如半務ハ時中治右中ハ神君也
百より凡情の相い君も時中を性と思ふ也と云り此仰り時中
半務も此出る時時 神君依久ハ洲川林等と百て山辺等 神小より
城中小扱へんと思ふ款とて更む家風成在士卒夜小軍令と背き
て款と遊て小慕ひ時を今ハ控敵小まへて小此ど 何れも神君を
と信られ 石川移心大匠等康等 柳原康政等居元忠大久保忠世中多
廣孝相年忠次が多老備酒井大次等と大務として惣務八千人を領

九平仍て味方ヶ原ハ井出後ハ信をカ加勢九平も止中を治右中を
九平ハ備て逢の端より井出より先まで此出る面ハ我れも此付
甲別督此川をて見お志るハ治右ハ大佐此付つ 初退く款を見
道は 殘念之ヲ秋炮とほりへて控を付るおを此付馬矢と此付
者ハ此まはまてのりハ此ハ井出よりハ右部もいと不保在
扱中ハ甲別督も此も返して同任ハ井出より け時 神君内人等
標出るハ相野等立りハ小甲別督ハ山田兵衛尉信を以て徒兵
上原能也といハ老味方ヶ原此馬の言ハ馬と云り 犀誰ハ安まり
款陣 越とてんは 浪松越ハ一重といへりも九平ハ備と互いハ
致と合人といへりハ後陣ハ扱へる浪田越ハ野子甲此星と輝し
山ハ神君と款して扱へる 初て致ハ人ハ多も此付備ハ小原

將軍ハ大久保七左衛門大世柳原小左衛門康政内蔵三左衛門小笠原元信
多田元忠元忠木下子五右衛門人ハ小傷九ツ下分さ世元元又信長分の
加勢休久月信望渡川一益平子監物時秀林信俊吉秀成水野俊
九郎政信沼井吉左衛門忠秀尾尾服信宗吉肥孫左衛門通平荒川
新八郎新孝木ハ新井中板新陣之元々け時多田四左衛門忠廣信元
百々今日の義小合戦者ハ又兵之細のりり(言や敵軍の林子何々ハ
余せらるる多田忠秀ハ出陣地陣中々ハ今日此中合戦不之勢敵猛勢
并て勝小傷之後ハ敵軍の傷候海の如く味方ハ無勢ハ一昨三小傷小
加ハ魁兵の旗色偽小勢りて白之旗候將軍止(言)林子三音敵ハ川原と
敵軍多田軍供之先子之勢とまらぬて勝候ハ味方ハ是れ一戦之
思召候將軍人数を知らぬ敵堀田の御計計をて大急小一戦

者之敵之勢小左衛門の由一戦不勝候中上候ハ神君大急怒せむハ
此日武勇ハ是方大急候之由候ハ今日何急不候候を
中々もや敵味方も勝候ハ一軍も七折して引退候ハ味方ハ
多田四左衛門も大急怒り某日武勇ハ是方大急候ハ社期ハ
中々勝候者ハ一軍ハ中々大急候ハ神君是し可
由急候ハ一戦の林子ハ多田忠秀ハ味方ハ既小軍ハ勝候ハ并
へ引退候之勢ハ是方大急候ハ合戦神の如くハ味方ハ必負候と
罵て勝候ハ神君再渡巴半務之由て世に世に(言)見候者ハ今
信者ハ半務見ハ先子(言)地持て大久保治左衛門を招て 神君の合戦と称
して強軍の人数と引揚立候今日の中合戦味方より神められ必強軍
之仕り候ハ神君再怒らむハ治左衛門大急候ハ互復して君

の命也と我こどもも返り来りしを別し不意敵大よみ入て地味
を先せし、柴田七九席、康忠引継ぎ、手白く信し、初め殊軍、向う別兵
も七三百人、手白く二、三、池、出、守、徳、勝、血、氣、不、を、る、時、手、不、能
と、影、お、り、し、割、を、れ、た、耳、も、更、ふ、つ、合、を、さ、し、莫、く、小、切、て、掛、る、武、田、の、先
隊、小、山、田、信、茂、態、と、敵、を、守、久、く、て、弱、く、し、り、を、な、れ、う、受、つ、と
忠、佐、康、忠、捲、り、立、て、切、て、か、る、と、十、分、小、川、竹、一、反、小、咄、と、切、り、か、り
家、討、人、と、思、煙、と、立、て、捲、立、ま、い、流、石、大、久、保、柴、田、の、あ、人、替、こ、う、入
戦、み、と、い、ふ、り、大、概、小、遊、立、られ、咄、を、最、右、健、足、傳、不、押、立、られ
敵、も、少、め、く、逃、ゆ、り、是、を、こ、ろ、石、川、信、老、守、教、正、今、ハ、是、非、が、先、子、の
大、久、保、柴、田、と、又、教、正、へ、き、小、北、を、こ、一、千、沙、而、余、人、圍、一、邑、を、揚、々、や
唇、や、巖、の、ま、と、視、ま、お、ら、し、て、小、山、田、三、千、余、人、の、ま、中、へ、云、然、も、か、く

切て入、突、入、声、を、立て、て、二、三、と、小、突、破、り、小、山、田、信、茂、是、を、見、て、手、を
兩、れ、ま、て、手、白、く、厚、く、小、立、て、敵、小、勢、を、味、方、の、備、を、う、け、包、て
打、て、ま、る、下、を、急、ぎ、れ、味、方、後、先、と、組、合、く、声、を、揚、て、突、器、を、石、川
教、正、大、名、揚、敵、大、勢、を、申、と、透、ま、か、是、並、捲、合、て、ま、い、敵、中、と
突、口、を、踏、馬、の、先、小、ま、を、と、ゆ、り、小、後、不、濟、へ、と、才、を、捲、り、下、を、知
ま、る、内、敵、正、從、兵、介、小、山、田、信、正、と、名、を、言、て、一、番、不、濟、と、人、を、甲、別
す、小、勢、後、遣、酒、本、と、名、の、り、て、思、系、の、體、小、三、本、を、る、へ、の、指、お、し、
大、長、刀、と、部、め、う、く、味、方、れ、石、川、の、備、を、捲、り、立、く、あ、か、左、と、ま、い、
あ、か、と、へ、切、り、返、立、く、此、を、る、替、ひ、替、り、馬、と、し、て、内、へ、と、不、勇、む、三、別、
替、及、と、言、て、五、反、不、亦、也、も、思、系、の、體、を、る、去、志、一、人、十、文、字、を、捲、
引、提、一、文、を、亦、此、事、の、い、し、く、も、備、く、志、振、出、世、渡、也、半、務、也、徳、と

都さうと十文字と云ひしに是を以てしるや遂に海に合嶽川にて
戦ふ如く後退精利を食ひて突やと嶽くと是へし精利は長刀打
落し透るも如く証を以て一陸突は是所の痛も小弱り早より下
りしを落る小首と云へる心事も如く井持て敵中へ地入一合限り
戦ふなり時時沼井たる射忠次を傷をり自れ方へ押出 咄と喚びて横
合より引退しと麦樹れの内しよの小山田よりへ急ると取れて引退
是より又小山線昌原陣中不意の是より古徳を折て取れ是より小山田
より又見たり 徳先を捕へて突を以て乃石沼原一帯を徳と合を介
過河高廣津に在る和田を以て嶽川にて麦樹れに初戦ひ小首を
陣より石川沼井より兵老たの初より小山線より傷の甚だ沢海の如く
あり左捕合く四女も亦あり取致ありと古戦ひはくれて捲り立られ

小首後小領より取れと云ふを見て 徳君の由縁はれ先傷多き平八郎
忠徳往地小白比立葵の旗を進め自ら大才に徳を引捲て 奈出せ
るより代従卒荒川志右衛門中多志右衛門合又平多門戦中横井
原に在り合平於常原一帯三浦竹為大原佐助等 甲田を以て北面
より名を以てし 香取の嶽より如く小山線より傷も入退り
是より退りし 四女も亦横合より引捲りて七勝ハ傷して戦へし汗馬車西小
池邊に以ての南北に孔に捲合く攻戦ふ為陣小四より声立てハ
引合を以て力色地より 合を争ふ者如くいふ如く徳君の闘も是より
是より退りし 是より合多し小山線より多勝 合捲立れ 本多より
従卒荒川志右衛門中多志右衛門合又平多門戦中横井原に在り合平
勇と捲合く敵中不強り 討死を依し是傷も亦あり 後より是より

大將忠徳方不怒り云甲斐を死從卒の者秋小いてお見せんも云んあ
切の徳と甲利の別兵と弓より引交する小引付の徳と振兵に向
ての甲利所成の徳と揮付徳南南の事不并云く此兵の事あり
南武の大將の死お相ひし碎易して人を捕ふこと進てはを白く後
てんころ不酒井石川五兵衛と立並し悪徳と云て切ておれは山録
と三方小敵と云て叶へるもあはるん咄と取れて退るる是は
見てる場更此も信房吉平と下知し序に左徳と并て一かみわりの
さんと志ころと領分是處を先へ押立る秩地のお意をつらぬ次早
并立す也 徳退るるも進るるも小引付の事不并云く此兵の事あり
かりし徳と出て戦ふ事 是と見て古屋たの耐志因洋左殿も
烟と云て美かす大はだかた殿の久保七左衛門死合とてお戦ふ

高坂陣正是と云て手帳を下知して力を加れは多病者も中根
平左衛門傳と云り出し 貴我ふ小幡新勢意の左殿と并て突かぬ
内着之方為信成柳原小平左衛門康政揮合て貴我ふ不ハ度とて并開
味方の京歌味方此汗馬の足無学止る事も引 原武世不龍さぬら
信吉と怪勇振あり 祢君と入遠方い合ての合戦おれは為家此兵
卒命と鶴毛小比戸ハ砂場お晒さるも 名と百天小引付とせし
一歩お戒め喚びて戦へも歌味方小入礼多旗の多ハ芳野新田此花
御多色めは酒少力なれ也 式ハ東へ退立られ又ハ典酒と命と限り
死と二場お争へも 徳川家お争荒川を布お多志去河合又お争
多ハ新中柳原京十左衛門と神と引 別卒多討死をれハ甲利方も名不
多ハ別卒討死とて 名不引 攻戦お信長の進退ハ

長谷川橋本依御殿第山口花澤寺加茂浦之布付既在者信長の
正元と多し 神君は仕へし今交の一戦を幸と思ひたりや四人は
小討死を免れ甲別方初此戦に返立りし小山田兵部尉信房出家
三方再び信を立連し後軍に死守を言んと関を搦て突かぬ武田
元吉は信房宛山入り橋本内後修理亮の信も関を奪して山に
歸りぬく小切てかゝる時 神君は米碓を振きし所は薩摩の人殺を
以横徳之入守強ひ小山田信房出家三方に中軍に死かひ自ら白旗
を振て東西を逐ふ一も常駐立ふはさしと甲別方も見ぬ所は
並に知速し一合此所を言と入るに均しく筑前長門長門信房退立りぬ
く小敗績也山線尾京とて言へし大者獨唯今初め今も存せし事
正元徳川家奴を揮き包て言ふは信を返し切ぬぬ甲信の兵大

大將軍は信を破るも言はるの如く此切る後大 神君は天下を交する
神武英智を破る大敵と見ておれぬれ小坂と見ても信は勝るを
高祖光武の志を更だぬる名將は一方より返る者も其も此れ
元吉を 米碓を振て味方死す上陣はぬるを 言ふは若くは西
をとんと山下知ぬれは清康中其英兵は先を搦て死すも中軍も小栗
又市忠政松浦八郎去布米山小信正和 松平三右衛門元質亦は
水野義十郎右衛門尉部守房 西川孫九郎正貞源又右衛門尉山止彦左衛門
山田十右衛門依徳礼之介吉久本多八兵衛時道之助右次郎原田信房齋藤
新八郎安部安房本家少将 甲州陣之師に安や声を搦て突届せし
待布りし英卒は東西を逐ふ一も南北に地立り大水はぬれを 搦て
攻破れはさしと山線も馬打る事立りし 新八郎依徳礼之介吉久

後へ靡れく下を酒井左衛門右次横槍入て突立れ山線旗の留まらざる
お放て引退く言ふ放て法隊急言立甲別勢を遊立く思煙を立て
麦動をハ武田勢ありへあて三町計遊立れ惣勢軍小及へマコ見
元方知小武田比布待新大文字村徳と花太押立マ馬よりり小と
まろ惣軍の留りて退くも牙ハ少も後へまろ惣軍の四方を映
齒と喰し山線旗は百子の方へ留れを言と二層櫓の旗門提籠
と軍勢の馬を此方へ叩起しきてか老なり返と大者揚て吟
り急備小急此方放ておせて時ハ能くを女老と云控つ自り旗
を遊立て香象の波を流さる如く志先小突入れはる小依て士急何ハ
左方へハ急勢加急者古屋惣勢急待形ハ左不旗井振曳や声
揚て攻められ大旗とあるを遊立て我ひ言れ徳川勢は旗本に

立て法隊胆白小急はる言小紐比小立葵の旗陣中小急らる言と見へけ
る思系此甲胃小麻の角ハ前立揚けるハ本多平兵衛忠徳へ自ら去
先小急を大急の旗を馬の平首小押立て双の籠を籠放掃子
系立流立待旗の旗本と目付一文字小球入つ大旗と右小急はる
文解の旗中叩き立流立止れ或ハ中兵小井上られ或ハ尻居小打
止へられり言て急言と候りや驚いと紐ぬけてはる揚り此急で
標旗は是ハ急をばり此旗ハ急備と立立り猪鬃を伴りけり切先
より史と出し思煙を立て戦ハは待旗の猛卒と十間身遊立待旗
柳子ハ思と起紐比小急を法花徑まら母衣キキ二層櫓ハ旗を
以て徳川勢へ突かりて母衣たてり立合と限りと戦ふるハ古屋惣
勢河勢加急者を叩きて死ぬりくと候りて急言と候りて

徳川勢と元の西へまゝ返す山線昌系とと争ひし軍勢
現めり返す酒井忠次の手ふ切入る酒井の傷多かりて煙煙と踏
まひし合ふ時小あり款味方此踏まひる烟の為小一天を
勝めし兵卒互ふ入れて汗馬東西小肥透入旗旗南北靡散て
雌雄と一巻と争ふより甲別方少は去る忠臣尉位近真田源を
信徳内後徳理元昌を元山信是入る梅吉吉田在馬小信忠小幡新
源新大炊介も坂陣心若旅れしと進め関と後して突掛れしを別方小
中多平常右衛門多居る忠元忠小笠原を常忠内後之忠信成
大久保守忠の忠臣河内信忠も壯心大に笑ひて唐の柳原小平を
唐政不孫命く命と限りと戦へハお合ふ者此時音喚れしを色ハ
合神も強け須深中も是く為不傾く一と散りし時信玄軍使を

後陣に並立止利を命せられ汝はふ前陣に勝てば横槍小前
三河勢と
突ひしと不知あれは兼倉丹後守元より大別の者なれは心持ゆと云保
味方原の守子の誰より下へ人数と押下し徳川勢の守子此方へ
三三小突加れは横槍小勇元とく一丸徳川勢浮きよぬす
又く一甲別督持よりあやと與に叫びて切立れ味方此九傷急なれ立
惣軍小成すと又へ甲別督速とあらせは責加れは人数一妙つが
情を可く小傷とれは小依り神悲れは傷小後りハ石川新正大
久保忠世の傷のいして女百人追然る甲別督と并立し引揚る後
目小余る大勢あれは京切も是れは後小石川大久保も可く守り
小陣より後々小織回家に加勢九段と雖ハ子余人は常井出戦
を小後軍小必し信玄も是と察し先子二の信玄志

即ち四隊とて敵陣に追入り信玄は膝下傷脇傷後傷ありも動
さず陣を破るせしむる後系徳田惣兵衛徳川家の後軍と見えよりも
依りて勝川と稱して一戦も及ぶと見え又見ればと見え小咄と見れば
左様不承礼して清洲と見して近江の其中小平子鹽物時秀一人は是と
見て大不怒り我々既小徳川家此加勢と見して遠く南へ出陣して敵將の
旗の多しと見え中へ追退し徳田家此死守と見え世上小紹へ
あり時秀一人爰まで討死し徳田家此武名小傳へと見え一の軍勢三百
余人と見しして馬と追入り此出たり時時も神君は此傷の大將と見
しし徳川家此勝るなり此勝るの英年三百人切ぬけし川退り
を流ひりし中多し後者慶孝と見え此後陣小川りし此
止まりてと見え追入り敵を追入り後陣と見え後者敵は流るる

大軍ありて方々小あて追入り大將と見え此敵討死んと争ひ追
む中多し徳川家此見しと見え此敵と突入り、此小あて追入り
敵の者小あて馬の胸がいと突入り此敵と突入り此小あて
敵小あて加へし見え此敵と見え此勝る武名一勝、神君と見え
此小あて、公も是肥をく此佩刀と見え此あへし見え此勝る武名
と見え此敵と見え此勝る武名と見え此勝る武名と見え此勝る武名
突入り此馬と見え此勝る武名と見え此勝る武名と見え此勝る武名
戦ひ此所此退り此勝る武名と見え此勝る武名と見え此勝る武名
知りし人雄兵七百余人と見え此勝る武名と見え此勝る武名と見え
神君大不怒り此勝る武名と見え此勝る武名と見え此勝る武名と見え
此勝る武名と見え此勝る武名と見え此勝る武名と見え此勝る武名

三河後風土記正説大全卷十八

三別勢敗軍

去後小 神君ハ古屋ヲ圍ニテすぬぬルハ馬ヲ并テ退ク少少甲
 別勢淡淡ル事事湖ノ漲来来日日必必ク空空不不在在圍ニ彼彼不不入入付付
皆皆今今もも多多クク肥肥後後守守忠忠貞貞昔昔々々々々二二男男中中多多クク指指シシ小小入入テテ返返リリ暮暮夜夜敵敵ヲヲ
 追及及クク三三所所余余レレ可可ママテテ七七交交シシ小小返返リリテテ敵敵ヲヲ并并テテ退退クク十十三三人人をを身身ハハ亦亦
 の痛子子をを負負テテ心心身身腦腦死死ススルル大大少少もも切切ララママシシ苦苦戦戦ハハ多多クク又又テテ圍圍
 中聲聲ヲヲ發發シシテテ敵敵軍軍ヲヲ力力ヲヲ追追付付キキ中中ヨリヨリ先先手手ノノ士士卒卒十十餘餘人人
 走リ走リテ切切リリ切切テテ切切ルル肥肥後後守守忠忠貞貞大大小小者者二二百百餘餘人人餘餘
 血槍槍ヲヲ敵敵方方ニニ振振舞舞フフ下下目目ヲヲ推推集集メメテテ返返リリ其其先先手手をを
 左右右武武者者一一陣陣ヲヲ突突破破シシ後後跡跡ヲヲ中中ヨリヨリ見見出出スス小小徒徒ノノ

時旭と書くは武志一人を去りて肥後守の職を担ぎ居り
忠義の心一つとして之を祖とせし別力ありて祖の徳を承り
新にゆくれば祖の徳を承り首の如く人となる妙に歎
六騎居合て力盡し隙をたみよ一古刀切小 ときくけて切居
さるもの尤物先をとり成敵の首格切立上人とてさるもの
切付るは流石に別業とせし忠義の心を承りて討死を討死し
加茂九郎と書く天賜妻を以て京中根元之節守節之節改称
源義隆正少川傳九郎 柳原勝正忠正進及之内者故其同長十郎
小山田甚為節守吉本 及び返り 防犯戦ひ枕を承り討死して 神志と
延しとる 神志ハ汗馬の功を揚げて後松へ退き去り小歩身小閑
の声は多活て小山田兵衛尉任を慕きて揮刃也なり我亦亦令けて

掛れいさ先小 神志馬とて自ら安んずる声と揚せり此切て加茂
へておぼゆる面く少は 長谷川純信と正長舎丹若九郎 小山田角之丞 神志
宗林志村通俊の秀次 中根市左の正重 大村通三郎 門系 吾之節 志友
後部十右衛門 永徳 同助九郎 牧友四郎 長定 杉本傳八郎 舎丹又六郎
神志之屋 勝政 吾田屋 彦の種 友荒川 甚左衛門 大河原 又友之 河内
源五郎 守源 横田久助 小笠原 新九郎 康元 同右之 勝 石川半三郎 正徳
大橋 刑部 加茂 此程 各其守源 四郎 大久保 新 善忠 奇 杉尾 治 兵衛
川合 源 重 勝 小笠原 七右衛門 石川 小五郎 江原 又助 正徳 石原 寸五郎
秋山 志十郎 松平 保左衛門 松山 久助 原 久秀 児 徳 源 十郎 正勝 同 与 助
山口 五九郎 堀川 彦伯 小栗 又市 忠政 杉浦 八郎 五郎 柴山 小三郎 正和
松平 三郎 右 康元 又 秀 水 時 彦 十郎 忠 守 服 部 半 彦 西 郷 孫

強ひる志努み纏りと接し三人守れ小長刀並短刀揮きて小山田の
陣へ面もあらず走入嚙みかく纏り文字小長刀を令之限と致へ
敵七人獲れせ八人小菊。敵を大花と首一斬り、長刀此柄と打れ
し、と入て吾手と烈きて引伏せ少も働を止し、御て首控後し互
より、と入て指本の玉花きて時秀の、毎衣より胸板きて打を、
ん、と云て例々、一而と小山田の、從卒此考て斬て首、と云て打を、
中根平左衛門、正眼、喜本又四布貞治、二股の、城を信玄小後したる、
神君世少も、云甲斐なく思召しんと、或れ、これ、あ人必死の、
年、と云て、小長刀、陣中、小長刀、入て攻戦、枕と、
神君、ハ、馬と、折て退、小山田の、声、
関八州云
双の大カ 迫、後、出、羽、一、子、余、人、群、り、来、て、神、君、と、五、卷、左、小、右、從、ひ、

向て千尋、苦、可、歎、ひ、く、時、時、小、至、て、秋、山、志、十、布、松、平、派、志、一、松、山
久、助、原、九、條、見、清、源、氏、同、と、助、曰、吾、九、布、堀、川、産、他、と、神、め、
安、居、女、子、物、来、付、小、美、政、信、守、枕、と、双、て、討、死、を、神、君、自、白、及、之
振、り、これ、時、圓、と、切、拵、の、流、松、と、内、り、て、退、多、少、六、人、者、余、の、大、男、小、右
半、批、襖、引、捲、内、甲、下、り、又、此、眼、小、明、星、れ、如、く、鬼、鬚、左、右、小、右、
小、糸、家、の、清、水、右、衛、門、正、次、と、名、を、云、て、此、表、の、神、君、と、又、存、在、り
一、女、家、不、意、を、て、そ、お、さ、り、迅、風、乃、め、く、な、り、不、神、君、の、由、り、ハ、
学、れ、果、る、加、け、足、い、と、と、進、り、り、れ、ハ、敵、不、遊、行、り、一、百、計、小、
御、小、危、く、見、こ、り、り、れ、ハ、西、馬、服、小、引、流、る、加、後、表、介、五、返、し
小、御、り、て、切、て、切、る、清、水、の、り、と、安、い、屋、中、に、
勝、け、と、知、し、い、ひ、も、あ、い、を、後、の、心、押、さ、五、つ、を、加、後、の、信、守、し、別、の、者

正定是とて又てして馬をて正定へしと後れをて敵中へ文字を死入て
是様とて互戦ひるもそが敵を此處に誘ひかゝる古屋平八郎の
沛艾の強足と奪む取て 神君もその時時馬を引添へる
英士僅に五六人測りて去定電を退くも清水近處の大軍志
るく甘慕ひ強て清水をたぬ先小をこするも勢ひ強魁大臣
の意もめくあふ依て馬を拵て走らせあふ向より三十騎計の
勇兵出する 神君も上りて是を西見有て家英卒馬を人
腦て茶後小敵と交へる今ハ是を思召強きあふ西根子中
馳向させあふ不敵あはあて多居彦左衛門元忠も討勝計して勇兵
あてり有りのあふ諸君も大に恨ひし清水の一軍隊もかく遊む
多居元忠家の我求り更た不共し君と補佐して退くもそも敵を

馬ををめて清水をたぬ不意にそを北より沙呂柄の強を以て是様と
互に突戦を清水ハ元より大別力也曾す人多居ハ必死の切先を拵て
あらし相れハ宗記匹馬從横小敵を穂先ををめて貴戦ひし流
矢一筋を射て鞍の前端を射削り多居も跨りあを射貴をたぬ
強をたぬを何ふアハ清水の突出れ強を穂先をの膝攻を突別
うんを拵るをきけてる上より左此甲申へ拵るも多居ハ大に拵れ
痛みの負より別を拵り絶へるも敵兵も合討するも多居ハ討死
をへりしと天運や強りも人知るもあかくてうけぬ此の陣の水咽ふ
入て息を切らさるく清水へ互向りも多居も強き隙小 神君は此を
道に強ひりもあは從ふ面ももまかして一歩踏角りて敵を防ぎ或は討死
するも依て敵衆もあは森合を多の御井形を命大行源も命吉治大是

折しも阿比奈多平八郎忠務従卒僅力中務小井とされ申す
秋山の備後後より喚びて切て入り多と頼子守り多と追之彼伽陀王此
るるをめぐり力に立れ兼後別殿小碓易して流石秋山此と居りて
引退く依り危多の難を道に此の流石の城へ入らせ給ふ時西別なり
由馬よりとりて流石の城に居りて大なる其口は西門より
たをえりて大敵をよき事城の中をけ門を開く者を知らし
るを神君見しと申し石鹿と申は流石退き者も意欲のたす討つ
彼門と守る者我々の城内へ欲せず入るに思ひもあはし
開き申て流石の城に依り必死と云ふこと位者初高井忠次を石
佐々の川に死せりて下流に伊門の内御小四を承の無を横へて城中
ハ静まりて相言と所をへりて依り忠次流石の城に討つ

解りしつ天付時山城は振りの天流法者大將軍討死有て極と云ふ
い置りり流石上下を流石して中々静寂なり流石の面は近
あなのを初め流石忠次も持て余一脱給て居りり流石
祢君なるは九人の法除武を流石首立て立御りて流石者此首
左のれ流石の母流石流石者小見せりて今日流石利と云ふとい
歌物武田信玄と討つると呼るべしと位流石は本畏て四方に死
けりといひりり流石の城兵大に依り忽静寂しりりり 祢君
入せられ流石の魁兵早りて心あり流石此を中々念にと云ひつ
流石石上られつれを久能と申し侍女見しと奉る小之友と云ひ
枕をえりてられり自新より豊小の睡眠あり流石大友のありて中へ
そそ流石の母流石の母流石の母流石の母流石の母流石の母

と後て葦田町小島小款進加ふれ、て返り、我々の中十番隊の結
ぶるなりと、小島に敵の陣甲は、神小島と見え、向も、其の法とく
付て、立上り、彼敵と討ふれ、是を、見れば、陣中、久留、働、い、成
らむと、大に、感心して、引退く、その、後、退、半、年、あ、る、天、世、又、休、休、働、い、成
る、久、待、至、ま、ま、信、頼、井、原、と、助、務、次、小、近、月、款、を、井、原、以、言、然、口、を、
入、て、ま、る、時、時、於、築、相、多、つ、め、房、く、ひ、く、交、彌、を、物、て、後、人、小、出、り、り、給、て
甲、陽、の、先、然、山、練、子、信、昌、系、馬、場、貞、徳、信、房、造、兵、を、引、て、進、り、を、
進、り、け、言、然、口、を、押、詰、り、ま、る、四、門、急、守、け、城、内、度、く、ま、り、何、く、人、有、ま、
又、ま、る、此、外、小、島、火、を、た、き、つ、け、る、の、こ、り、れ、い、山、練、子、場、中、り、り、
款、兵、多、く、後、を、左、門、の、形、に、閉、り、小、賊、を、ま、る、く、り、進、り、入、城、を、ま、お、
ま、り、へ、ま、り、と、中、小、馬、場、普、思、案、上、て、款、は、小、利、を、ま、る、の、城、中、へ、進、入、る、上、は、

門と閉る、つ、り、く、六、橋、を、ま、り、引、進、り、事、あ、る、今、城、の、と、同、以、毎、を、焼、て
お、り、極、子、を、い、兼、て、謀、り、味、方、と、偽、り、入、去、人、と、残、り、ま、り、井、原、と、人、と、
計、り、も、多、く、を、若、大、將、と、云、大、徳、川、家、の、当、時、英、雄、あ、れ、い、卒、尔、小、御
成、頼、一、時、極、子、と、い、け、り、ひ、ま、り、入、り、と、相、頼、も、り、小、城、内、より、海、邊、
半、島、口、半、十、番、振、井、原、と、助、務、屋、志、ま、信、房、等、と、一、種、と、し、て、令、後、又、勇、士
百、余、人、陣、の、後、先、と、い、へ、喚、叫、て、突、き、入、る、毎、い、ち、れ、先、介、家、く、一、見
已、け、難、く、甲、別、の、極、卒、大、勢、中、へ、渡、り、小、旗、北、入、り、ま、り、取、れ、彼、所、
隠、れ、戦、へ、ん、款、味、方、と、已、け、ま、り、同、士、軍、が、及、り、り、時、時、有、居、居、ま、り、
膝、臥、し、痛、者、を、陣、中、を、り、て、城、門、を、よ、り、移、り、い、出、大、者、揚、て、小、島、ま、り、声
を、叫、ぶ、ま、り、を、呼、ぶ、ま、り、も、中、多、大、久、保、沼、井、村、雄、原、極、卒、並、百、余、人、之、を、
切、り、出、さ、る、由、様、を、毎、十、文、字、小、旗、を、く、物、を、折、り、も、石、川、向、ち、家、成

神君夜不位玄多不三其西一戦不及なり。是侍入守城小八勇卒少し
強し至人数三百余人引連。此来りり。其時小思ひもよる。馬場山線
の備服より。園を破りて。切入れ。其の依兵よ。と。し。初。下。そ。あ。あ。り。り。り。
山線。馬場。軍兵。さ。ら。と。品。れ。て。引。退。し。浪。松。壱。郎。也。あ。り。り。
追。之。く。甲。別。督。と。沙。百。余。人。引。連。て。待。閑。信。を。引。退。せ。し。馬。場。山。線。も
名。栗。の。宿。廣。は。山。若。寺。極。を。 ち。此。の。石。は。兩。の。妻。の。方。焼。拂。味。多。京。へ。引。連。す。
其。時。神。君。極。村。在。る。大。春。江。原。孫。三。郎。内。後。卒。在。る。清。久。菅。沼。三
小。部。本。と。在。り。し。海。軍。の。人。数。と。引。連。下。壱。不。所。へ。至。て。其。西。と。守。り。へ。し。
其。西。に。敵。兵。多。先。あ。り。て。志。ろ。も。要。害。能。不。な。れ。信。玄。必。死。と。云。ふ。人。も。是
計。を。へ。し。若。し。信。玄。不。其。西。と。守。り。時。ハ。我。城。ハ。咽。喉。と。く。び。ら。る。と。云。ふ。人。
本。江。原。内。後。極。村。菅。沼。信。玄。と。交。て。別。彼。不。死。然。り。り。
此。れ。ハ。味。方。の。原。を。城。ま。り。九。丁。の。地。

あり西に浪松の原にあり被破り
町より引く敵防の其戸あり 然る不位玄の待閑信を引退せし馬場山線も
人数三百人を指し、其の西に人衆と侍甘原と甲別督を引入
八百より探立あり、其の首を千余切えり、柳原康政は浪
松へ入り、戦場より東へ東へ山名を西へ引退く、是は信玄城を
責むば不意に本陣へ切入て大死せんと欲し、然る馬場山線も
退く、其の時康政討死せり、士卒僅に五十人なり、是をめて、其の
家今の城中へ入り、其の時西へ引退く、君は方ふ、其の忠戦して討死せん
と欲し、其の妻も今夜も甲別督味方を不叱と欲し、然る老々も
今日味方大に征軍して、敵十を、小打撃し、其の今宵、敵陣を破る、
折て、敵の英死を奪ふ、一として、士卒を引連、其の刻、其の猪籠の陣
中へ、其の号、園を、破り、一文、其の切て、入、其の田、其の今宵の戦、大、利、と、信

兵糧才乏、湖のほとり、各敵と見合、兵糧不續、向ふたは、
呉魏の大軍を以、高城を圍む中、容易に落さるへきや、流石、不當
家、糧を切ら、籠城して、守る、城中小隊死せんと、唯存やう、一戦して
事あら、敵を退け、事あら、せん、討死して、多年此、血を、報、も、
し、と、詞、を、い、く、中、上、何、事、も、言、ひ、ん、言、ひ、ん、言、ひ、ん、言、ひ、ん、
次、石川、仙、若、崎、敷、正、あ、ん、い、ぬ、初、三、傳、の、戦、を、あ、ん、い、ぬ、今、言、ひ、武、田、惣、へ
夜、討、ま、し、敵、い、今日、十分、小、隊、い、掃、て、味、方、大、小、隊、破、つ、ぬ、い、ぬ、言、ひ、
敵、を、お、れ、と、り、城、中、小、隊、い、掃、て、と、り、思、ひ、油、取、せん、然、ら、小、我、を、お、れ、と、定、め、
一、回、お、心、死、の、切、是、を、い、切、入、り、は、運、之、異、く、事、有、个、一、死、十、死、一、生、の、戦、を
あ、れ、屋、三、重、と、云、り、れ、い、石、川、望、て、井、う、か、つ、ま、を、我、も、も、け、る、を、れ
と、い、ふ、と、り、小、隊、い、掃、て、と、り、良、將、を、い、立、心、え、か、し、思、ひ、を、い、敵、陣、を、い、
と、い、ふ、と、り、小、隊、い、掃、て、と、り、良、將、を、い、立、心、え、か、し、思、ひ、を、い、敵、陣、を、い、

い、ぬ、め、を、後、夜、討、と、あ、ん、い、ぬ、と、り、今、一、て、武、田、陣、を、い、ぬ、む、終、り、
柳、原、小、平、を、原、政、い、思、ひ、初、戦、て、懐、兵、を、取、め、城、内、へ、引、入、り、あ、ん、家、
来、伊、奈、源、屋、と、い、ひ、て、中、小、隊、い、掃、て、敵、を、あ、ん、い、ぬ、城、を、攻、め、
今、言、ひ、敵、小、隊、い、掃、て、と、り、良、將、を、い、立、心、え、か、し、思、ひ、を、い、敵、陣、を、い、
敵、人、の、我、い、ぬ、九、十、者、を、思、ひ、生、死、を、い、ぬ、と、り、今、一、て、武、田、陣、を、い、
敵、城、を、い、ぬ、と、り、良、將、を、い、立、心、え、か、し、思、ひ、を、い、敵、陣、を、い、
出、任、を、い、ぬ、と、り、良、將、を、い、立、心、え、か、し、思、ひ、を、い、敵、陣、を、い、
備、を、先、へ、備、せ、今、戦、い、ぬ、先、隊、の、人、數、を、い、ぬ、と、り、今、一、て、武、田、陣、を、い、
左、右、へ、大、海、を、横、切、り、一、書、相、見、あ、ん、い、ぬ、武、田、陣、を、い、ぬ、と、り、今、一、
中、二、交、れ、合、戦、を、い、ぬ、城、中、を、守、り、ぬ、と、り、今、一、て、武、田、陣、を、い、
い、ぬ、と、り、今、一、て、武、田、陣、を、い、ぬ、と、り、今、一、て、武、田、陣、を、い、ぬ、と、り、今、一、
い、ぬ、と、り、今、一、て、武、田、陣、を、い、ぬ、と、り、今、一、て、武、田、陣、を、い、ぬ、と、り、今、一、

先、小、柳、原、夜、討、り、
討、り、油、取、り、ぬ、

中多作友の軍次後きて歩前へ出らる 神君又前代如く不仕候され
りり多し予次是之を承りて中ハ君之別所より入らる 初初小石を力と成
清長天野平左衛門康康と付作友と三人之志を以て職小定られ別
田原小石打寄へとも口をきこしハ佛言カ鬼作友を打ちたりの天
理之命と中ふりし以中内をハ一々もも佛言カ此ハ蟻の夏ある事と
是候事すしハ中や候不其候不鬼と叫んで以天國中を初せん侍と
句して赤敷之館へ中中七百石され今危急此時ハ諸士小石へ入らん
小石糧不足有へり然ハ高城小石を初相友は防戦して数日中
合戦有へり織田信長是と批さるへり又信長春衣を佛信言ハ楯
威とあれて後援の助け何と云ふ事ハ此岩不揃落る内家未だ中城を救
はん之池をらんハ必定之何そ定へき運と控て之際の討死を心をあへん

中ハ小石初て安候不及 事此れハ初川尾別ノ城ハ水野野
守信元 神君と批らんとして人数を奪りて今切と云候を押出され不
多居元忠ハ今ハ我れ涼を奪りて歩前へ出らる事も叶はれ中石不
りり大久保等々忠世天野平左衛門康康あ人と批り中ハ我兼て
屏嶮ハ 口原 竹ノ海 古と云候ハ之等今ハ候ハ小計略を以て
必款と付元ハし我候不痛手負て計畧を難ハ 亦色ハ計て以事
と以て多へり中ハ忠世康康依堂して件の涯へ幕を張るを以て
丹之ハ算火式ニケ所焼つて事させ後城中諸多の因換炮の上を
撰り小僅十六人を求めはるりハ思しと百連 元元の兵七十余人兼
て安内ハ初りり間及と云て款陣の後へ出らるを焼きて思す候炮
候并々けてハ関と云候し事如ハハ中石板け言不出てハ又并立ハハ

則とて、是より後、小敵の味方の小勢が、へて、思ひもよらん、夜討社
入る、と、う、後、入、後、き、引、返、し、戦、い、ん、と、ま、り、あ、く、礼、を、ま、て、引、退、く、
彼、後、し、無、火、と、味、方、と、の、思、ひ、先、悉、く、逃、る、る、不、名、を、設、け、申、を、此、
より、と、味、方、の、石、を、ま、り、と、取、れ、後、進、ま、先、小、軍、勢、三、百、斗、と、い、ふ、端、
入、後、引、返、る、者、ら、と、い、ふ、し、甚、だ、い、ち、し、と、い、ふ、証、より、逃、る、と、説、く、心、は、
先、よ、及、あ、り、と、心、は、と、せ、り、馬、も、後、れ、人、も、後、る、と、い、ふ、後、れ、下、合、後、引、
く、引、く、後、入、る、後、不、僅、志、は、し、の、ま、申、小、七、百、余、人、後、入、り、一、朝、の、と、海、と、消、
あ、り、大、久、保、天、陣、十、分、不、仁、と、い、ふ、一、待、時、俵、り、て、引、返、る、馬、場、山、原、
夜、討、を、説、く、と、申、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、説、く、後、不、怪、人、数、を、引、上、り、
と、先、に、す、し、報、し、れ、ハ、信、房、昌、景、小、向、等、歎、し、て、云、良、將、の、り、不、弱、兵、を、
と、い、ふ、宜、む、ら、い、我、し、脱、不、法、信、房、昌、景、小、向、等、長、持、本、宿、善、昌、村、上、等、清、を、

初、と、て、上、列、の、中、長、持、合、勢、松、井、田、或、ハ、小、糸、今、川、の、合、戦、不、疑、
數、を、知、り、と、い、ふ、れ、ハ、信、房、昌、景、大、將、を、ハ、今、日、也、と、い、ふ、後、不、其、不、疑、
逃、散、し、又、ハ、甚、卒、此、心、通、く、あ、り、て、申、時、も、防、戦、ハ、十、分、不、疑、今、徳、川、家、
は、今、日、の、如、敗、軍、し、て、い、ま、一、時、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、防、戦、刻、可、不、
疑、討、し、て、我、兵、と、い、ふ、と、い、ふ、奇、を、な、す、妙、を、な、す、信、云、卒、日、徳、川、及、之、
申、と、い、ふ、申、事、あり、て、大、事、也、説、く、不、疑、不、疑、我、ハ、其、若、大、將、也、何、れ、
者、ハ、と、思、ひ、の、れ、振、音、ハ、誰、不、侮、り、難、き、説、く、者、付、淡、松、を、攻、討、
ハ、人、數、を、甚、干、多、不、疑、と、い、ふ、振、音、ハ、誰、不、侮、り、難、き、説、く、者、付、淡、松、
明、を、な、れ、聖、本、三、百、不、疑、り、り、不、疑、井、田、次、石、川、教、正、合、合、し、て、中、
り、ハ、夜、討、ハ、説、く、不、疑、不、疑、不、疑、不、疑、不、疑、不、疑、不、疑、不、疑、不、疑、
説、く、大、將、を、名、れ、て、城、中、不、疑、り、あ、ら、ん、る、も、口、惜、り、ハ、今、朝、不、疑、り、

切て出都の英丸を折くへいと客不利をなれり此の各軍表の南
日北殿番ハ穴山惣少夜兼より押番ハ保坂常陸内掃部へ
交代して其の備を頼むる故少し及めく所小備小園の声を及め
やむや友共より酒井友多の尉忠次右方より石川佑孝を殺し百
本指勝之穴山より七百余人へ切て居り此は有る事と
左へ務く妙を悟りやあやと去るも走入面へは松平源七郎康忠
大協又内後志三郎正貞小柴又市忠政大久保義之助忠重太田志
郎守吉徳大久保新十郎忠隣安後志郎重次松平又八郎信忠松平
因防守忠次松平志左郎忠忠大久保新八郎忠利小林彦助正次
酒井友多房友右柳原守子と忠政は山小倉正和秋元志吉吉久
中多正八郎正信大久保治左の忠佐中多義次信重吉井小友の利

松平五郎四郎信一内源治常重系内後志左の信成内後四郎友正成
於深根惣左の秀徳菅沼貞政大久保三郎左の忠政加後志左の正次
於深根左の定好横地道河正家毒林合左の氏後青山虎助忠利
勝山差藤元政松浦源十郎親次小中右衛門正義飯沼才助小倉系
新九郎康元小倉系系八郎長忠一内小室了明り家や声と揚て攻互れ
穴山惣少の如くひくと見く保坂常陸内掃部有信大守了と亦て地
所り入者らんと其の如く透りもるく掃部正穴山遊立と此の如く
て引退く時穴山梅吉の軍旗と保坂の兵入り影多混雜其時
如く徳川勢八面不備て其の如く穴山保坂有信の軍兵其悉く
退去らぬて逃退く酒井石川系早しく人数を視て引去り收む
當りて引退け戦を以て内後源理亮昌孝大守了と云甲斐守地

先きの後を以て物人きんを備さくし出さるる地事
中多太務柳系康政大は度康る久久保太世連傷を標出の款
加らる一戦せんを志思お成て扱へり内後昌豊破り獲るを志し
つて形て人数を律揚あり 去程小信玄ハ猪軍ありりる所
亦三百其傷之法設け以て討た首級を定持し其後臨むを集めて
合戦の果見を以て討た猪形極言道逆射る場山練内後以下
中々のハ款取の時方ハ猪軍して各あり者多く討死し生残る者
源の清子と名ありりしを上南宮の身並に種を以て討破り知へる
亦隆光と見らるるハ其居の所ハ猪軍ハ一掃して源松を棄破るハ
必定之傷し亦人数を定められ討城を攻む猪軍ハ衆議一同して中
信玄元より此許に一変出るを心付中と見後しあふ小信別法傳

の城より坂源正忠昌信一人懸然として其妻に託すされし事
源正と名れ法良孫ハ源松を攻へし事計る所ハ一人懸然し
たふといふあり昌信傳て中ハ猪軍の陣後と其の存る所柳お
遠江松子ハ一書も中とせしと云信玄討て其計る所ハいふ事阿れ
其時源松後ハ其の員意の事とせし先尾列信長此源松を
救はん者其勢を奪し法別法府を打する事ハ其後より源松を
軍勢打潰たる中陣中沙汰侍り 妙是ハ水地信元ハ軍勢を陣中かく野交す 其上源松の
城を攻めんハ法良の良將とせし徳川家の氣城ありいなる
運下勝利をたす事一月の日数を経てし尤も信長後諸事
て中坂へ至る事今却る三万計も揮まりりハんハ凡儀田原の難を
移りりハんハ法良侍傳邊ハ山城大和河内掎背丹波丹後播磨

植村出羽守友

返り攻に為る信元中より唐既降る人今秘蔵の是也
折るに後奥口より尾の馬を以て誓つて歴年
中より後攻に成る信元

八月終日

謙信

徳川三河守友

渠又上別信元より河へ働かんと能く一時ハ又小名と云表裏の人
弱と皆人質と掠て忽敵の多きを立候らん候り時ハ何んを以て臨
ん是自ら滅亡今日の危死之唯兵と淑めて退き去るは兵を以て
降められ信元是より回をりて一時信房近に出陣候松の徳吉の
方松より今心皆玉別ありて今迄の戦も急を以て降と又

たりと子卯の敵死骸も亦へ向て候れり信上の急務負之交
し命と換す事能く當時謙信の徳川家と以て謙の英雄と稱
す其勝ひる家表を以て急務負之候徳川守と和睦し
多し嫁娶の約ありと是を以て争ひ候ひて苦くして功あり事此を
今由より中り候信元は心より信元は後戻り候松より
三里北の方刑部引元へて議定有 神君は日擧り申す候
敵陣より見たり候本多右衛門と百て汝敵の機を知りて也之は
けれハ大務表てけ敵南陣を攻め敵はあつた必人数を引揚へし
と子卯ハ大軍に誦子輜重を以て軍に任す候なりと申す候事
信元亦四日小味方ヶ原を引拂ひ刑部引元より後殿ハ高坂昌信
あり候時也 神君ハ忠信は甲田七九布を百進進せられ神擧り上り

後武田の熱軍門の伴と既成て宮に於て我人数を以て
大軍と出さん小信玄の人数之自中少きは何の事あるや
歎かふも信玄の婚毒の害一交の思ひぬるも其威を以て
々々や角て信玄の刑罰へ引たけられた哉是も及りたり
少く討たるも平手堅物首と首揃不入波別致皇へ送り中
此時信玄信長と集の織田と手切せんといふ事知信長の中
後強正福め中々ハ信玄の所をぬれ彼信長先手を止む事
娘を以て其母として猪形と婚姻と之無き後君れ此娘を以て信長の
子息と婚姻の由約諾あり然れ其の人口あり君ハ族の少を奪ひ
多を隣国に候へ思ひん可世々人口塞ふ可なるべしけ如し思
有るは信玄へとんと禱る友信玄も然心有て今徳川家と手切

あつた信長を救つた然るに是を攻て信長と手切せん
後平手は首を切て信玄の使を以て
信長は我と慕ひ思切と云ふ事有る事あり然る
信長は善悪の御付交家康の力を助けて縁家の信玄に歎き致
さる事有り得れり後小信玄兵を率いて必尾の土地に諸邑を約
有違ふ事有りぬへ信玄は約の婚毒を誓ふと手切此口上中送
られり
信長は我と天下の統の功を以て思ふ事有る信玄必
後より尾張を以て伺ひ人の必定はされはして押して勝負を改む
は後部信玄中といふ事十年の内に容易亡し難し織田掃部忠
去ル永禄八年九月九日甲州へ赴し信長近年波別至平追治行りぬ
仍て信玄の所より其母を隣りて以て民百姓を以て其不初事有る

伊奈四郎屋へ信長が娘を乞ふに父の贈と汝に存せし其時亦二
歳也此後妙丸は十歳よりして十歳の四郎屋へ婚姻せしむるに
女子三才し仍て法別苗本の城に在りし其の妹を年少く樂に
娘と信長知少より其を以て容色心術宜き者として是を四郎屋
に嫁せし中其禮を乞ひて中置りし時其梁田依久守其田平子
等君臣小天下に旋て主んを欲し汝に何ぞ甲斐の入り不偏に
たふへき信長曰亡しむらうき別款をば我誓汝にむて亡はへ
しと誓ししかば初て信長承知し依て其月十日を以て其
伊奈へ輿入るる婚姻の如永福十一年十月 男子誕生 御慶
室家の存死あり信長既士小舟して曰左衛門信長自害せしハ
汝世に若孫之希ハ當山の各孫四郎の孫にけ交傳形段其男

子と信長が家無き事とて山録の場内左衛門の法老屋に
其田源五郎と名原自多子とて左衛門王信長之記を武田重
代其江のち力安存し狼を以て送らるる事とて後又信長を武田
掃部と申中送らるるハ信長七歳の息女を乞ふ奇妙丸小嫁し
中其旨之を傳山録曰下評書の如信長四郎と平春世んと欲し
上洛有るれ心中小いやうなる大旨を千う紙に主孫を乞ふ事や
評り難し此後評容宜くはし信長昔工吏有信長より小神を
入て送る唐提と名寄せし事小黒津子武田重之役とて是へより
割らせり見らるる小布をせし事其地へ是上信長より一年小七歳
信長ハ一歳有るれ是入魂傳り其地花柳之同心ありし事
十一月 孫洲の事として信長へ虎皮三枚豹皮五枚 昭子百巻令

具の院十口姫方へ厚極百律^{ズキ}百反ぬ梅踏百反多同子貴系
梅為常三而節とて婚姻の約詔者へ入魂ありて

信長右伴不懸勅不馳乞と設て管倉倉有行への引多物と送り々々
け付時武田信久君御田中下石徳明智前田中の諸君と集り評定
者りりよ下中下りり信長の以上下々書洋多知れ者々三三の馬一戦
と催され酒川家と先子とて武田とて攻討給ひ小糸家へ使々
信長極多く物のみ去と退出せる罪を攻んと義戦を催され氏政
人数と起まへし様又戦後謙信は酒川家と三三の馬一戦攻討中
信長は三三より武田とて武田の入りて何々味方小
付々々井破らん必定之君不義昭々の者々兵を起して諸候
悉君に威とある何々一人の武田入りとて武田の入りて何々味方小

り信長はくくと思ふ者々武田様を極せり及去武田様し合々
攻者人々大儀計畧の上々武田の謙信は當時居れぬ極極
信長亡ひハ必信信が誓ひ大命人今信信大玉を依りて威を遣
むり付ハ是虎の胆と信り及理者我ハ何を能治へき上我ま
中玉西玉の敵信と治めて是後関東と平治せん欲者小御西玉
の兵十万と信中玉の六万小御中玉の兵十万と信東玉の子百り
第ハと云信ハ是信極関東と者々の信り故不先安きを治めて
強きと信ハ是信極関東と者々の信り故不先安きを治めて
掃討と信ハ是信極関東と者々の信り故不先安きを治めて
はるハ去年徳川家身指の百某極と前利も加へて徳川承
たつり年々及信信長は迷惑仕知りて之を子御ハ信長ハ中

不及高村小舟の徳川信長、幕下小三、才を立んと心と信長へあきさ
も、才、大言、あつ、今、友、味、あ、京、合、戦、の、ゆ、八、在、そ、才、元、振、め、為、家、人、也
吾、誠、り、へ、雨、陣、既、へ、我、志、以、欲、不、成、り、と、い、雨、加、後、之、か、へ、し、れ、以、信、雨、屯、の
む、り、小、い、信、長、武、田、家、へ、為、し、神、言、之、と、存、在、を、る、元、振、は、け、考、一、説、を
一、説、を、り、没、收、信、長、へ、既、不、信、長、う、る、と、り、小、い、知、れ、武、田、家、元、振、年、三、信、長、中、共、
合、戦、事、初、も、さ、る、以、前、小、い、信、長、中、共、時、小、加、福、と、与、へ、い、ひ、り、あ、り
又、向、後、ハ、徳、川、家、有、者、信、不、正、て、信、長、も、亦、遠、而、く、雨、息、世、と、城、之、今、也、へ
既、少、く、へ、し、是、人、信、長、不、正、手、也、人、信、長、の、後、ハ、雨、屯、の、信、長、へ、し、と、り、是、人、信、長、不、正、手、也、
此、書、我、等、の、信、長、り、り、信、長、元、より、馬、と、好、の、折、り、あ、れ、中、之、心
情、心、あ、く、雨、多、切、り、及、し、れ、り、る、

三河後風去記正説大全卷十八終

三河後風去記正説大全卷十八終

